

## 新井（侖）家文書にみる絵入り歳旦摺物について

兼子 順

はじめに

埼玉県立文書館に寄託されている新井（侖）家文書の目録刊行が、平成二十一年度と二十三年度の二か年度にかけて終了し、現在一般公開されている。

新井（侖）家文書は、江戸時代の武蔵国横見郡久保田村（現比企郡吉見町）の名主を代々勤めた家の文書群で、総点数三万点を超える埼玉県内でも有数の文書群といえる。内容は、村関係、家関係、文化関係と多岐にわたるが、特に、俳諧関係の文書の全体に占める割合が多いことが特徴である。

新井家は、江戸時代に歴代の当主が各務支考の弟子たちが組織した結社のひとつである東武獅子門（神谷玄武坊）の重要門人であり、また、埼玉県内で有力な伊勢派の俳人ともまじわりをもっていたことが、多くの俳諧資料を残すことになったといえる。

新井（侖）家文書は、多量な文書群のため、昭和五十九年に寄託されて以来整理が続けられ、今度の公開となった。俳諧資料の一部については、所有者の特別の配慮で、すでに研究等に利用され、東武獅子門等の活動が明らかにされてきた。東武獅子門は、江戸の周辺に栄え、埼玉県内にも多くの門人がおり、近世俳諧史を研究するうえにも今後

さらにその活動実態を明らかにする必要があるだろう。新井（侖）家文書の公開により、東武獅子門の全国的な活動実態が解明されるとともに、他派との交流資料も多いことから、他派の活動も知ることができ、今後の幅広い利用による研究成果を期待するところである。

特に同家の俳諧関係文書のなかでも、全国の俳諧連中から年頭の挨拶として贈られる「歳旦」の数が多く、その数は三千点を超える。年代の幅も長く、地域的には全国に及ぶ広範囲の資料群である。

歳旦は、俳諧史を研究する上に貴重であるばかりでなく、当時の文人のネットワークを知る上にも貴重である。また、近年には、歳旦などの摺物の研究が進み、歳旦などに添えられた絵について近世絵画史上の観点からも新しい発見がされている。

この度刊行した目録では、紙幅の制限もあり、歳旦については、年代、出所、出版人及び書写人、形態だけについての情報となり、絵画関係の情報を盛り込むことができなかつた。当館では、従来から文書整理の中心が村方文書であり、文化関係の情報を目録の中に十分に盛り込めない面が多かつたと言える。絵画関係の情報についても、同様である。

本稿は、文書をより有効に利用してもらうため、新井（侖）家文書

の歳旦摺物について、絵画関係の情報を整理し、資料紹介しようとするものである。

### 一 新井(仇)家文書に残る絵入り歳旦摺物について

歳旦は、俳諧宗匠が、毎年正月の慣習として門下の連衆と歳旦の三つ物をよみ、これに知友・門下の歳旦、歳暮の発句を引付として添え、摺物にして配ったものである。新井家では、当時から春に配られる春興なども含め、摺物も手書きのものもすべて歳旦として整理しているので、今回の整理でもそれを踏襲している。また、新井家は、師匠玄武坊の没後に文書類を引き継いでおり、玄武坊宛に配られた歳旦も多数含まれていると思われる。

新井(仇)家文書に残る歳旦は、三三二九点あり、一枚のものは手書きと摺物があり、大きさはまちまちである。帖仕立のものは、ほとんどが横半帳の摺物で、丁数は数丁のものがほとんどであり、大部なものでは数えるほどである。<sup>4)</sup>

新井家では、歳旦類を年毎に「他門」「諸国」などに分類してまとめ、表題を記した包紙や、紐で括り、整理していた。「他門歳旦」「他連歳旦」記載の包紙に包まれていた歳旦も多く、同門ばかりでなく、他門との広い交流がわかる。また、年代等が記されていない歳旦であっても、包紙記載の年代から年代推定が可能である。しかし残念ながら、すべてが整理したままの状態ではなく、ばらけてしまい年代の推定が不可能となったものも少なくない。

この外、包紙からの情報では、No.二一六一六からNo.二一六二六までの一一点をまとめた包紙に「殿様之御すり物二御座候、御上屋敷ニて

いた、き申候が進上仕候、必御返しニ不及候」と記され、歳旦として贈られた以外のものもある。ただ、No.二一六一六の端裏の小札に「東武吉見 鏡裏御房様 歳旦入 柳糸拜」、No.二一六一七の端裏の小札に「享和二壬戌年 野松様」とあり、後に混入した可能性のある歳旦も含まれている。

年代的には、宝暦七年(一七五七)から嘉永二年(一八四九)まで約九〇年間である。ただ、文化十四年(一八二七)以降、極端に減少し、年に一通あるかなしかであるが、天保十三年だけは一二通と多い。新井家では、文化十四年以降も俳諧活動は続けており、後年にこの時期の歳旦類がまとまって処分され、残っていない可能性が高い。

地域的には、新井家のある武蔵国横見郡久保田村の周辺地名ばかりでなく、江戸の地名がかなり多く、北は出羽国・陸奥国から、南は肥後国まで、全国に及ぶ。

新井(仇)家文書の歳旦の中で、絵が添えられているものの数は全体の割合からするとあまり多くない。新井家が属していた東武獅子門では、歳旦に絵を添えないのが一般的であり、絵を添えた歳旦は、他門のものか、手書きの個人的なものである。

発句や狂歌などに彩色摺の絵を添えて交換することは、明和期以降に盛んになり、多色摺りとなっていく。文化文政期に至ると、俳諧宗匠をはじめ、さらに広く一般大衆の中に流行してゆき、宗匠や同好の士が画家に頼み、あるいは自分で描き、それを彫り師に彫らせ、摺りに摺らせて出来上がったものをお互いに交換し合って楽しんでいった。帖仕立の歳旦帖についてみると、表紙や見返しに、正月らしく注連

飾や門松、鉢植えの福寿草などが描かれているものもある。しかし、

表 新井(伉) 家文書の絵入り歳旦摺物一覧

No	年代	出所	絵師名	画題	備考	縦×横(cm)	文書番号
① 柳几	1	己丑(明和6).. 前砂 春桂、吹上 橋志外、布袋主人		龍文図(彩色)	宛「露香練」	20.0×45.5	12334
	2	癸巳(安永2).. 川田谷 風二、杏五、畔吉 坐来、布袋庵		龍文図(彩色)		18.3×25.0	13499
	3	甲午(安永3).. 前砂 春桂、吹上 橋志外、布袋庵		松・梅図(彩色)		17.0×49.5	16361 16417
	4	未(安永4) 前砂 春桂、吹上 橋志外、布袋庵		花籠の氣梅・文机・文房具図(彩色)	宛「野松練」	16.8×57.0	16561
	5	乙未(安永4) 川田谷 風二、畔吉 坐来外、布袋庵		花草図(彩色)		17.8×47.2	16562
	6	丁酉(安永6) 東武御黒南在連中		旭・菊図(彩色)		31.2×50.0	30042
	7	戊戌(安永7) 東武御黒南在連中		宝珠・薬束図	宛「野松練」	32.0×45.0	8188
	8	いぬ(安永7) 香芹、布袋庵柳几		花照に花押図(彩色)		18.0×21.1	8197
	9	子(安永9) 東武吹上 橋志外 布袋庵		柳図(彩色)	宛「野松練」 包「他」歳旦	15.2×44.0	11041
	10	壬寅(天明2) 東武忍岡布袋庵社中		門窓・雀図	宛「久保田」	14.0×33.5	14684
② 松露庵	11	天明5 武一宮 紫瓶外 布袋庵柳几		白梅・松図(彩色)		18.3×48.3	10948
	12	癸巳(安永2).. 武策田 桃源庵文郷外		松竹葉図(彩色)		18.5×33.0	13542
	13	癸巳(安永2).孟春 武袋糠田連 魚生外、松露庵鳥明		松図(彩色)		18.6×44.7	13533
	14	甲午(安永3) 武策田 草月外、松露主人		紅梅図(彩色)		18.6×41.0	16364 16418
	15	乙未(安永4).孟春 武糠田 鶴図、錦市、松露庵		鳥・松図(彩色)		19.0×24.3	16556 16579
	16	丁酉(安永6).孟 武策田糠田連 草月外、松露庵鳥明		文机・文房具・福寿草図(彩色)	天地部欠損	×44.0	29713
③ 松山	17	戊戌(安永7).孟春 武糠田沼染連 青草外、松露庵		若菜・鷹取り図(彩色)		18.6×31.9	8191
	18	天明4 東武松山 殿指庵左文		門松・注連飾り図	包「他」門歳旦 包「竹本歳旦」	19.0×22.0	11262 21283
	19	寛政2 武州松山連 左文、文桜、涼江、琴舎外		鶴図(彩色)	包「他」門歳旦	18.2×42.3	14880
	20	庚戌(寛政2) 武松山 正等舎二川		鹿図(彩色)	宛「野松練」 包「他」門歳旦	19.8×17.7	14878
21	辛亥(寛政3) 武松山 正等舎二川、琴舎、拙山宇米我、皇 雨、布袋庵柳也		紅梅図(彩色)	宛「野松練、桃宣練」	16.5×29.6	12151	
22	丙辰(寛政8) 東武松山連 左文、二川外		子担き・萩図(彩色)	包「他」連歳旦	16.4×23.2	10012	

新井(伉) 家文書にみる絵入り歳旦摺物について(兼子)

No	年代	出所	絵師名	画題	備考	縦×横(cm)	文書番号
① 武山	23	丁未(天明7)	対茂、記春	河原の松図(彩色)		19.3×26.0	13888
	24	戊申(天明8)	対茂、記春	鉢櫃の福寿草図(彩色)		18.0×24.8	14719
	25	かのへ(寛政2)	対茂、記春	鶏図(彩色)	包「他門歳旦」	17.5×24.2	14881
	26	辛亥(寛政3)	対茂、記春	花籠・松図(彩色)	包「他門歳旦」	18.1×24.3	12150
	27	壬子(寛政4)	大茂、記春、抱山宇米我	旭・初鳥図(彩色)	宛「野松様」包「他門歳旦」	18.0×24.5	14615
	28	甲寅(寛政6)	武山 太茂、米泉、三枝、山童、記春、米我	柳鈴・錦囊図(彩色)	包「他門歳旦」	17.5×44.3	21944
	29	丙辰(寛政8)	武山 米泉、三枝、太茂	柳・井戸・鶏図(彩色)	包「他連歳旦」	17.8×24.4	10013
	30	戊午(寛政10)	武山 米泉、三枝、太茂、記春外、莊丹	恵比寿・大黒図(彩色)	宛「野松様」 包「他門歳旦」	17.8×49.0	14804
	31	丁巳(寛政11)	武山 三枝、米泉、太茂、記春外	海老掬げ図(彩色)		18.0×49.4	12162
	32	戊(享和2)	大茂、呉随	扇面図	包「他門歳旦」	16.1×11.7	14810
33	亥(享和4)	東部 呉随 武山 疋隣太茂	桐図		13.5×20.5	16766	
34	丁卯(文化4)	武山 対茂外、呉随、莊丹、抱山	鶴・松図(彩色)	包「青山歳旦」	17.5×48.0	29074 ～8	
⑤ 莊丹	35	寛政10春	水石、菜英、雪萬、午心、莊丹	旭・松図(彩色)	包「他門歳旦」 包「殿様之御すり物」	20.0×53.5	14806 21622
	36	未(寛政11)春	水石、椿之、菜英、雪萬、午心、莊丹	紅桐図(彩色)	包「他門歳旦」	19.7×53.0	9849 9850
	37	申(寛政12)	武かわたや 水石、菜英、赤洲、雪萬、莊丹	梅・観音図(彩色)	宛「寛政十二庚申年 野松様」 包「殿様之御すり物」	20.0×56.0	21626
	38	壬戌(享和2)	川田谷 菜英外	帳屋の竹図(彩色)	包「殿様之御すり物」	19.2×52.5	21621
	39	戌(享和2)	椿之、菜英、松年、午心、莊丹	旭・松・貴人図(彩色)	宛「東武吉見 鏡裏御房様 歳旦人 柳永祥」 包「殿様之御すり物」	20.5×27.8	21616
	40	亥(享和3)	東武足立連 菜英外、莊丹	布袋・唐子図(彩色)		20.3×55.5	9871
	41	甲子(享和4)	東武川田谷 菜英、松年、午心、莊丹	越後獅子・童図(彩色)	袋「三節 黄蝶堂」	20.4×27.0	29913
	42	丑(文化2)	川田谷 菜英、莊丹、雪中庵	狎・黄蝶・白梅・芭蕉図(彩色)	包「他門歳旦」	13.2×29.3	17572
	43	卯(文化4)春	東武川田谷 椿之、松年、午心、莊丹	文房具図(彩色)	宛「野松様」 包「他門歳旦」	19.8×27.7	15170
	44	辰(文化5)	菜英	白梅柳・扇面図(彩色)	包「余慶歳旦」 包「諸国歳旦」	13.5×19.5	15594 29205
45	巳(文化6)	菜英、成美、莊丹	水草図(彩色)	板元「六井秀嶋」	39.0×25.5	29186	
46	未(文化8)	東武川田谷 千翠外、莊丹	蝶図(彩色)	板元「五井秀嶋」 宛「桃豆様」包「他門歳旦」	21.1×14.1	29995 29998	

	No	年代	出所	絵師名	画題	備考	縦×横(cm)	文庫番号
⑥ 周辺地 城	47	天明5	武山島 桃園園和水、五器主人(此中)		梅・短冊図	包「歳日浦和」	14.5×21.8	10907
	48	天明5	長鯉堂百川		扇子図	包「歳日浦和」	17.0×24.0	10908
	49	[寛政2]	孤柳園山童、鳩阜、橋富、春麗、山雪、虎庄		柳図(彩色)	宛「野松緑」	18.3×49.2	14883
	50	辛亥(寛政3)	武坂戸 里水、仙玉、里秋、春麗、仙里		柳図	包「他門歳日」	16.3×39.7	21522
	51	己未(寛政11)	武者小玉 千廻、寛者、尚人	宗理	富士山図	包「他門歳日」	13.0×17.8	12623
	52	[文化7]	杉呂		梅図(彩色)		13.0×13.3	18282
	53	[文化7]	官鯉、杉呂、车路外		鶴図(彩色)		22.3×29.0	18283
	54	文化8	熊谷進 和自、桃弥、竹二房外		桃・道標・茶飲み図(彩色)	袋「も、ちる里 熊谷進」	38.8×26.0	29933
	55	亥(文化12)	武熊谷 露律、湧泉 和飄、成美外		柳図		19.9×18.4	12760
	56	文化13	武松山 夜雪、尚友坊(祐直)	元無	柳図	包「諸園分」	15.5×42.0	14235
⑦ 江戸・ 諸園	57	乙酉(明和2)	越河社中		柳図		33.8×46.5	12872
	58	明和 3	羽尾花沢連		門松・注連縄図		32.0×41.2	10904
	59	[明和8]	東武白山 青山坊茶笠		松図(彩色)		18.9×22.6	18331
	60	安永7	会津三ノ宮 雨蟬		七福神図		17.3×44.0	13092
	61	庚子(安永9) 春	春風楼和水	南白圭	福寿草・文房四宝図(彩色)	「影」中出斗圖 包「他門歳日」	21.3×28.7	9855
	62	庚(安永9)	住職亭可立	住職亭可立	宝珠・黄図(彩色)		19.5×26.0	10005
	63	癸卯(天明3)	霍二外	勢南小雲	牛図(彩色)	包「白山歳日」	16.2×46.3	9962
	64	丙辰[寛政8]	一橋庵飛沢外	嵩林(英一・椿)	鷹・松・鳥居図(彩色)	包「他連歳日」	18.0×24.5	10014
	65	午(寛政10) 孟春	酔月楼玉英外	洞左	松図(彩色)	包「他連歳日」	19.5×53.3	14799
	66	[寛政12]	竹径舎三巴		紅梅花図(彩色)	包「他連歳日」	17.6×8.7	9857
67	[寛政12]	菊園舎翫羽	嶺秀	旭・梅・鳥図(彩色)	包「他連歳日」	19.6×26.5	9852	
68	丁卯(文化4)	花月庵菊露改(橋本)太明	寒山	宝船図	包「他連歳日」	18.0×23.8	15176	
69	文化6	紀府廻門吹上連		柳・開伊莫図	「橋治刀」	36.3×47.3	16933	
⑧ 狂歌等	70	丙寅(文化3)	花晨月扇	一柳斎豊広	福寿草・置物図(彩色)(平砂書)	「月扇公三節 平砂春興」	19.4×28.4	21275-1
	71	[文化5]	桜庵芳野美種 四方歌田真頼外	辰斎	[狂歌]女若菜繪図(彩色)	包「諸園歳日」	13.9×18.8	29206
	72	申(享和2)	水亭行也外	先ノ宗理北斎	[狂歌]女鍛冶図(彩色)	宛「享和二年 野松緑」 包「殿様之御すり物」	12.8×17.2	21617
	73		楽成丈外	画狂人北斎	[狂歌]女初練図(彩色)	包「殿様之御すり物」	13.6×18.4	21618
	74		嘸轉堂住仲住	画狂老人北斎	[狂歌]藤風図(彩色)	包「殿様之御すり物」	14.0×17.9	21619
	75		水亭行也	辰斎	[狂歌]旭・白梅図(彩色)	包「殿様之御すり物」	12.4×17.4	21620
	76		永嘉亭波部外	永春	[狂歌]彩色)	包「殿様之御すり物」	17.9×24.7	21624
	77		花晨亭月扇	豊広	三方の折り鶴と玄武・打ち出の小槌・共白髪図(彩色)	包「殿様之御すり物」	21.5×27.9	21625

新井(仇)家文書にみる絵入り歳日摺物について(兼子)

彩色のあるものは数える程しかない。<sup>5)</sup>

絵の添えられた一枚摺歳旦についてみると、数は七七点あり、添えられている絵は、墨摺のものから多色摺まで様々である。これらを出所の連などで八つのグループに分け、年代順に整理し一覧すると、別表のとおりとなる。

①は鴻巣の布袋庵柳凡の門人たちである。②は松露庵鳥醉の弟子箕田村(現鴻巣市)の文郷と、鳥醉の跡に松露庵三世を継いだ鳥明の門人である糠田連・箕田・屈巢連である。③は武蔵国比企郡松山町(現東松山市)の左文、二川を中心とする連である。二川は建部涼袋の門人で、寛政期には、柳凡のあと布袋庵を継いだ子柳也の門人に名を連ねている。④は「武山」と称する比企郡青山村(現小川町)の対茂・記春と安戸村(現同町)の三枝を中心とする連である。抱山宇門瑟の門人の系統で、文化四年には、莊丹との交流がある。⑤は莊丹の門人たちの連で、特に川田谷(現桶川市)の菜英を中心とする連の歳旦が多い。⑥は新井家のある久保田村周辺の①～⑤を除く連である。⑦は江戸と諸国からの歳旦である。⑧は大名摺物と包紙にある狂歌等の歳旦である。

①②③④は佐久間柳居の門人の系統である伊勢派で、⑤は大島蓼太の門人の系統である雪中庵系である。⑥は、伊勢派、春秋庵系や、美濃派の竹二坊と交流のある熊谷連(No.54)、新井野松の子桃宜(尚友坊)と交流のある松山の夜雪などである。⑦は、「他門歳旦」「他連歳旦」と記載された包にあったものが多いが、羽州尾花沢連や紀州塊門など東武獅子門に属する連のものもある。

新井家は、野松の代に玄武坊の門人となるが、父翅紅は鳥醉の門人であり、野松の代になってからも周辺地域の伊勢派との交流は引き続

き行われていた。そのため、新井(仇)家文書にある絵入りの一枚摺歳旦には、同家が属する東武獅子門とは「他門」「他連」となる伊勢派や雪中庵系の歳旦も多く残されている。

絵柄は、正月の門松・注連飾・松竹梅・福寿草・柳・鶴などの鳥・蝶・海老・宝珠など正月にあった題材や、その年の干支にちなんだ動物などである。この他、句と照応した画もみられる。彩色は、多色のもの、一二色のもの、色を施さないものまで様々であり、年代が寛政期以降に多色摺で、色の華やかなものが多くなる。

安永前期までのものは、歳旦の天部や地部に竜や花・松などの絵を模様のように描いているものが多く、安永後期からのものになると、巻頭部に絵が添えられるようになる。ただ、彩色は一色から三色程度で摺られたものがほとんどであり、歳旦に正月らしさを添える飾りの絵となっている。寛政後期からになると、絵師名が記載され、絵柄も手の込んだものになり、色も多色のものが多くなる。ただ、武山連の歳旦は、寛政期以降、浮世絵師の作品を思わせるものもあるが、絵師名の記載はない。

板元や彫師名の記載のある歳旦もある。No.69紀府塊門吹上連の歳旦にある「橋治刀」は、京都の板元橋屋治兵衛で、美濃派の摺物を多く手がけ、蕪村の絵入俳書の板元としても知られる。No.45菜英の歳旦とNo.46東武川田谷連の歳旦にある「広井秀峨」は、江戸の彫師であるが、美濃派や成美や巢兆とも提携し出版も手がけていた。彫師名としては、No.61春風楼和水の歳旦に「彫工中出斗園」とある。販売を目的として作製されたものでないため、板元や彫師は記載されないことが多いようである。

紙質は奉書紙のものが多く、大きさは大奉書全紙判を使ったもの、その二分の一の大判、四分の一の中判、横に半裁した長判、八分の一以下の豆判など様々である。大奉書全紙判を使ったものは、折紙形式となっている。

## 二 絵師名のある絵入り歳旦摺物について

歳旦などの摺物の絵を浮世絵師に依頼するようになるのは、安永(一七七二〜八二)期以降であり、寛政期から天保期にかけ隆盛となる。

新井(仇)家文書でも同様で、絵入り歳旦摺物に絵師名の記載が見られるのは、安永九年春の春風楼和水(No.61)と、同年の住蝶亭可立(No.62)の歳旦からで、それ以前には絵師名の記載がない。寛政後期以降になると、絵師名を記載する歳旦も増え、著名な浮世絵師の名も見える。特に、⑦江戸・諸国、⑧狂歌等に多く、埼玉県関係では⑤莊丹一門の歳旦に専門の絵師に依頼したものが多く、注目できる。

そこで、新井(仇)家文書の絵入り歳旦摺物の中から、寛政期から文化期にかけて摺物絵師として活躍した北斎及び北斎一門、窪俊満、歌川豊広の作品について、次に紹介したい。

### 【北斎】

北斎は、師の勝川春章没後に勝川派を去り、寛政六年(一七九四)頃に琳派の画家の名前である俵屋宗理(二代)を襲名している。俵屋宗理を名乗る一門は、狂歌刷物、俳諧とのつながりが深く、とくに雪門の大島完来(雪中庵四世)や、岩波午心(律雪庵)などと提携した俳諧刷物が多い。しかし、北斎は、この宗理号を寛政十年秋頃迄に門人宗二に譲り、北斎辰政と号して独立を果たすのである。

No.35の寛政十年春の水石・菜英の歳旦(図1)に北斎改名前の「宗理画」で旭に松の図を描いている。歳旦には、莊丹とともに、雪門の午心・雪萬が句を添えている。

北斎の名のある作品は四点ある。No.72は、水亭行也外三名の狂歌歳旦(図2)で、「先ノ宗理 北斎画」とある女刀鍛冶図には描かれる刀・槌や女性の着物の襟・絵模様は銀泥が施されている。「宗理美人」と称される瓜実顔の女性二人の躍動感ある動きを感じさせる。「申のとし」は、享和二年となる。No.73は、楽成丈外四名の狂歌歳旦

(図3)で、「画狂人 北斎画」とある、鍬を担ぎ、松飾りを手に持ち、鍬入にむかう女の図である。鍬先や帯の模様が銀泥で描かれている。No.74は、裊巒堂柱仲住の狂歌歳旦(図4)で「画狂老人北斎於而天王橋之辺ニ写」とある鳶凧図である。細い竹の籤に黄色を、凧糸に銀色を入れた、手の込んだ作品となっている。No.73・No.74ともに年の記載はないが、「画狂人」「画狂老人」の使用から、享和元年(一八〇一)

から文化三年(一八〇六)までの作品とみられる。

No.42川田谷黄蝶堂菜英の歳旦(図5)は、「九々蟹 北斎画(印)」と落款があり、「丑のとし」は文化二年である。菜英の句とともに莊丹と雪中庵(完来)の句を載せている。袋には「三節 黄蝶堂」とあり、料紙の天部に金線を施し、芭蕉と紅梅、空摺の狎、依頼主の号に因んで黄蝶を描いている。小さいが、地面の砂まで丁寧に描いた贅沢な作品である。

### 【北斎一門】

北斎一門としては、宗理(三代)と辰斎の作品がある。宗理・辰斎ともに狂歌刷物、狂歌絵本の挿絵を多く描いている絵師である。

宗理の作品は、新井(尙)家文書のなかでは六点ある。北斎から寛政十年に宗理名を譲渡され、翌十一年のNo51武藏国埼玉郡若小玉村(現行田市)の五葉亭千翅と曾林舎寛者の歳旦(図6)に、「宗理画」で墨摺の富士山の図を描き、十二年には、「申の年 武かわたや」とあるNo37武藏国足立郡川田谷(現桶川市)の水石・菜英・赤洲の歳旦(図7)に、彩色で柳と紅梅・貴人蹴鞠図を描いている。

享和二年には、No38黄蝶堂集の歳旦(図8)とNo39椿之・菜英外の歳旦(図9)の二つに絵を描いている。No38は、川田谷の菜英が集めた荘丹とその門人二四名の発句に、宗理が荘丹の句との関連で葉の残る帳屋の笹竹図を彩色で添えている。句と画が照応した一枚摺となっている。門人の範囲は、足立郡から人間郡・比企郡まで及ぶ。No39は、荘丹の庇護者として知られる川田谷の椿之と子松年、菜英と荘丹・午心の発句に、宗理の旭・松・貴人の図が添えられている。松葉には金色を使用している。

No41は「甲子のとし 東武川田谷」とあり、すなわち享和四年、川田谷の菜英と松年の歳旦(図10)で、午心と荘丹が句を添え、宗理が越後獅子と童の彩色のある図を載せている。獅子の髪を空摺、太鼓に銀色、童の帯や地面の砂に金色を使うなど豪華な作品となっている。

またNo44は、文化五年の菜英単独の歳旦(図11)で、縮緬紙を使用し、「菱川宗理画」として柳・空摺の白梅に扇面を描き、扇面中に菜英の二句が書かれている。扇面の天地には墨摺の上に金色を重ねている。宗理の作品のうち五点が川田谷の菜英の関係である。

辰斎の作品としては、No71とNo75の二点あり、ともに狂歌歳旦である。No71は、文化五年の狂歌四天王の一人である四方歌垣真顔と秋長

堂物築、森羅亭万象など数寄屋連の歳旦(図12)で、紅梅と柳の下で若菜を摘む高下駄の女性二人を描いている。女性の衣装の紋様は金色を使用している。No75は、年紀の記載のない「水亭行也」の歳旦(図13)で、旭に白梅図である。白梅の花を空摺で描いている。

#### 【窪俊満】

窪俊満は、北尾重政の門人で、北斎の活躍する寛政期以前にすでに工房をもち、狂歌本、摺物の画を多く描いていた。俊満の作品では、No43の文化四年の東武川田谷連の椿之と松年の親子の歳旦(図14)で、午心と荘丹が句を添える。魚模様硯・墨・水差し・筆と梅図の筆立を描いた図である。椿之の句に合わせた硯の図である。また、墨・水差し・筆立の足部には、墨色の上に金色を重ねている。「俊満」の丸い朱印が押されている。

#### 【歌川豊広】

歌川豊広は、歌川豊春の門人で、肉筆美人画に優れ、黄表紙、読本等板本の挿絵にも活躍する。豊広の門人には広重がいる。豊広の作品としては、No70とNo77の花晨亭月扇の歳旦(図15・16)がある。No70は、鉢植えの福寿草と、台上的月曆の置物図で、置物に「丙寅」とあり、文化三年であることがわかる。No70の包紙に「のし 月扇公三節、平砂春興」とあり、万葉庵平砂(二代目)の春興の発句短冊とともに同封されている。No77は、金と銀の折り鶴と玄武を載せた三方に打ち出の小槌・分銅を付けた共白髪図である。最後に「万葉老人書」とある。二点とも花晨亭月扇が絵を豊広、書を平砂に依頼した歳旦である。

なお、No40東武足立連の歳旦にある布袋・唐子図の絵師「滝広」も豊広の門人である。



おわりに

以上、新井(侂)家文書に残る絵入り歳旦摺物について見てきた。

同家の絵入り歳旦摺物は、新井家の属する東武獅子門の「他門歳旦」であり、佐久間柳居の弟子たちの組織した連のもの、いわゆる伊勢派の歳旦と、雪中庵系の鈴木莊丹の門人の歳旦、そして狂歌等の歳旦に多い。美濃派の東武獅子門の関係の歳旦には、全くないわけではないが、数は極めて少ない。

県内では、俳書に絵が添えられるようになるのは元文三年(一七三八)にすでにあり、摺物については、県内でいつ頃から絵が添えられるようになり、どのように展開していったのか、まだ明確にわかっていない。新井(侂)家文書の歳旦摺物で見ると、絵入りは、絵師名は明和期から見られるようになり、絵師名のあるものは安永末期になってからである。そして、名の知れた絵師が登場するのは、寛政十年以降である。絵師は、北斎、北斎の門人の宗理と辰斎、窪俊満、歌川豊広などである。この時期の歳旦に添えられた絵は、本稿では紹介しなかったが、莊丹の門人たちの歳旦や「武山」連の歳旦などは、絵師名がなくても、力の入った作品が多い。

絵入り歳旦摺物は、文化期以降広範な広がりをみせ、量的にもかなりの数となっていたとされる。

新井(侂)家文書では、文化十四年以降の歳旦が極端に減少し、絵入り歳旦摺物の動向を追うことはできないが、明和期から文化期までの県内の動向を追うことができる。

新井(侂)家文書は、県内の絵入り歳旦摺物の流行する初期から、展開する寛政から文化期の傾向を知ることができ、東武獅子門のよう

に絵入り歳旦摺物をほとんど作成しない派もある一方に、伊勢派や雪中庵系のように絵入り歳旦摺物を作成する派もあり、県内の動向ばかりでなく、江戸をはじめ諸国の動きを知ることができる貴重な資料であるといえる。

註

- (1) 収蔵文書目録第49集「新井(侂)家文書目録(一)」(平成二十二年三月)。同第51集「同(二)」(平成二十四年三月)。
  - (2) 小林甲子男「新井家俳諧資料目録」(平成二年、私家版)。同「俳句の本領―能静・鈴木莊丹の生涯―」(平成二十三年六月)。加藤定彦「外村展子編『関東俳諧叢書』第八卷(一九九七年二月)、『同』第二卷(同年一月)、『同』二〇〇二年一月。鹿島美千代「美濃派俳書の版元について」(『図書館情報メディア研究』七巻一号、二〇〇九年)。
  - (3) 浅野秀剛「摺物概観―千葉市美術館展示図録―粹人たちの贈り物 江戸の摺物」(平成九年一月)。「雲英末雄「俳諧―枚摺について」(『稀衛文庫調査図録第三号「俳諧―枚摺―」平成三年四月)。永田生慈「北斎の画業と研究課題」(『東京国立博物館展示図録「北斎展」二〇〇五年一月)。
  - (4) 表紙共紙の横本で、大和とじの簿冊が多い。
  - (5) 伊勢派柳九率いる東武鴻巣連では表紙に淡彩の八仙観百川西海老・蜜柑図を使用し、蜜柑にはうすく黄色を彩色している(文書番号一三五六外)。また、享和四年「焦門歳旦三物」(二四一三七・二四一三八)は、京都の橋屋治兵衛で摺った全国的美濃派の歳旦をまとめたものである。表紙に絵を入れたものや、絵の中に題字を入れたものもある。句に添えられた絵としては、湖東蝸牛庵社中歳旦の文音にある大江丸の句に併画として描かれている鯛・鯉図であり、すべて彩色はない。美濃派では、福井、紀州、三河など一部を除き、絵は添えていない。絵柄は、正月の門松・注連飾・凧・松竹・鶴などであり、錦帯橋図は連のある地域の名所が描かれたものもある。
- この外に、表紙等に絵をそえた歳旦帖には、越丸岡(九八七九)、羽州最上千歳山連中(九八八七)、鷹行舎(一〇〇一五)、越新潟(一〇六五九)、武陽八王子(二〇〇五)、仙府獅子門(二三八八四)、浪花連(二六九三五)がある。また、東武菜葉集の文化丁卯年「下代みくさ」(一五一六九)の表紙見返しには文江陳人画の梅・松図が描かれている。
- (6) 針谷浩「久保田村新井家に縁のある俳人たち―その一―」(『文書館紀要』二四号、平成二十三年三月)。
  - (7) 前掲②鹿島美千代論文。
  - (8) 拙稿「武州忍の俳人編集による絵俳書『枝紅葉』について」(『埼玉県立博物館紀要』第三一號、平成一八年三月)。

付記

本稿の資料解説にあたっては、室清氏、重田正夫氏、石岡康子氏、石塚由紀子氏、西野栄子氏、藤原三枝子氏、村岡克子氏、山下たか子氏と共同で解説した。感謝申し上げます。(平成二十五年一月一日 記)

【文書翻刻】

No. 35 黄蝶堂菜英外歳旦 (文書番号一四八〇六、二二六二二)

宗理画 (旭・松図、彩色)

歳旦

日おもてのから紅るやはつ鳥 涓々窓水石

しろき歯のあるしとなれり家の春 黄蝶堂菜英

年尾

筆はめて度かしく雪の梅 石

たる事の矩のあまりや除夜の夢 英

○

灯の関屋を出たり春の月 文来庵雪萬

落鳳中や駒の啼に引てゆく 雀雪庵午心

一吟の使来にけりんめか奥 菜窓 莊丹

寛政十年春

No. 37 武かわたや連歳旦 (文書番号二二六二六)

(端裏付紙)「寛政十二庚申年 野松様」

宗理画 (柳・貴人蹴鞠図、彩色)

歳旦

初暦ひらけハ睨も萬よし 涓々窓水石

ほのくくと笑む趣や初筑波 黄蝶堂菜英

武蔵野の春に社見ん初日影 嚶鳴館赤洲

春興

今日もまた空に友ありいかのほり 石

慰めとくすりてふへき春の園 英

指さして夢やかたらん春の不二 洲

○

鶯や山を離れぬ芝の鐘 文来庵雪萬

春の夜や夢はかりなる鮮の庄 菜窓 莊丹

右申の年

武かわたや

No. 38 黄蝶堂集歳旦 (文書番号二二六二二)

宗理画 (帳屋の竹図、彩色)

春興

焼筆のと、かぬ峯の雪解かな 川田谷 菜英

あさかほの朔日なりけり春の雪 同 梅芳

御製にもあつかる右近桜かな 同 山芝

五合帆に青き高瀬の柳かな 同 白泉

春風の結んでハとくやなきかな 同 花蝶

うくひすや谷を忘れて軒の花 同 扇龍

若草や土手の行衛も春の色 同 楚花

され風や住にし雲のはなれ際 同 椿之

さきくくして香こそ凝らめ梅の花 同 松年

東風吹や開く扇の春けしき 同 白羽

物直にうつる木影のやなきかな 同 英益

吉原や夜の花実の百千鳥 領家 双杜

から堀になかれもあへす根白草 同 白石

日の春の色三圍の木の芽哉

畔吉 白袁

下萌や野駒の蹄恙なく

同 坐来

折添る樽に野梅や節戻り

中分 有僕

水ぬるみぬるミく〜てうきゝかな

平方 吞江

引汐に日あらハなり鹿朶のくり

同 千鷲

大道髪の如し帳屋の竹のうす霞

与野 莊丹

古井戸に茶釜とうしの柳哉

六郎 吟杏

はるなれや青き手綱の勇ミ駒

同 笑語

姑ハ跡から行か嫁菜つミ

出丸下郷 如雪

砂にかくおもひのはしよ土筆

同 西谷 松雨

夕柳姿ハ民のけふり哉

ハッ林 英雨

うくひすの声やたゝみし小傘

唐子 有台

壬戌のとし

黄蝶堂集

No.39 黄蝶堂菜英外歳旦(文書番号二二六一六)

(包紙)「東武吉見 鏡裏御房様 歳旦入 柳糸拜」

宗理画(旭・松・貴人図、彩色)

戊歳旦

春興

千代恵む日をまつ門の節哉

清友亭椿之

元旦やしつかに松の影みとり

松年

初そらや日をはゝかりの青畳

黄蝶堂菜英

春なれや浅井に深き水薫る

之

春雨や歌舞伎の曾我の夢心

年

義之か引筆のすさみか春の川

英

○

外曲輪の井も朝は汲柳かな

律雪庵午心

春雨に腹ふくるゝや歌ふくろ

菜窓 莊丹

No.41 東武川田谷連歳旦(文書番号二九九一三)

宗理画(越後獅子図、彩色)

歳首 恒の産のせハしきに

発句も出来侍らハぬとも

明の春 黄蝶堂菜英

蓬萊の櫃かち栗や

さゝれ石 栄亭松年

春興 うくひすの息に解るよ

岩間水とし待たす丈に

もの皆能安し 英

猫の妻追へは見帰るうらみかな

律雪庵午心

梅やなき造化の対句うつくしき

能静莊丹

甲子のとし

東武川田谷

No.42 川田谷黄蝶堂菜英歳旦(文書番号一七五七二)

(袋)「三節 黄蝶堂」

新井(仇)家文書にみる絵入り歳旦摺物について(兼子)

九々蟹北斎画(梅・狎・黄蝶図、彩色)

嘉時

庭訓にうちまかせけり家の春

黄蝶堂菜英

急景

飼彪の耳ふりたてつ煤払

同

春興

茶心のされはそ梅に庭草履

同

几中柀木のかつらいかならむ

能静牡丹

うくいすの覗て啼や連歌堂

雪中庵

丑のとし

川田谷

No.43 東武川田谷連歳旦(文書番号一五一七〇)

(端裏付紙)「野松様」

(印)「俊満」(文房具図、彩色)

歳旦

東武川田谷

かくばかり尽せぬ海やはつ硯

清友亭椿之

蓬萊に真向の富士の外面哉

菊亭 松年

春興

鶯やと、まるところおしえ鳥

同

妹か軒か、みにうつる柳かな

之

同

正月もすえや山家のたき、馬

群蜂 午心

晋子かいて物見さむとあるに又

紅梅ハ大太刀をさす若衆かな

能静 莊丹

卯春

No.44 菜窓菜英歳旦(文書番号一五五九四・二九二〇五)

菱川宗理画(梅・扇面図、淡彩)

菜窓菜英

賑にしてよく静なる御慶哉

梅やなきこゝろくゝの品さため

辰とし

No.51 武若小玉連歳旦(文書番号二一六二三)

宗理画(富士山図)

己未

武若小玉

歳旦

門々の松にこそあれ時津風

五葉亭千翅

君か代の不老門なり松かさり

曾林舎寛者

春興

蔵あれハたそ風しらね梅の花

寛者

幾人て一疇わける若菜哉

千翅

同

雛鶴の生たつ春の日脚哉

尚入

No.70 花晨月扇歳旦(文書番号二二七五―)

一柳斎豊広画(印)「歌川」(福寿草・置物図、彩色)

歳旦

屠蘇ハとそ得手の酒くむ睦月哉

春興

若菜つむ野におもしろの吹雪かな

歳暮

花を縫て心に春や衣配

花晨月扇

平砂書

No.71 桜庵芳野美種外狂歌歳旦(文書番号二九二〇六)

辰斎画(紅梅・柳・女若菜摘図、彩色)

桜庵芳野美種

淡雪のふる野に出てはつ若菜つめともさほとたまらさりけり

朝風に軒の蜘蛛の巣はらかせてすくさま糸を春の青柳

○

森羅亭万象

壁ひとへとなりかくなり匂ひ来てとちらへもよき中垣の梅

秋長堂物築

初瀬詣ふてなから若菜をつま紅粉のはけしかれケハ明ぬ春風

四方歌垣真顔

水結ふ邪魔な柳と去年の去年の夏むすひしまゝにみとり結へり

No.72 水亭行也外狂歌歳旦(文書番号二一六一七)

(端裏付紙)「享和二壬戌年 野松様」

先ノ宗理北斎画(女刀鍛冶図、彩色)

水亭行也

春たてるそのミなもとハ名剣のうすみとりまそ霞むあつま路

葉山茂留

ねの日する大宮人に立ましりかすミもひくや野辺の小松を

外山正木

朝霧たつて舞子か浦風になミの鼓もはるになる空

不調法師

手綱にもちとゆうりある朝霞引つゝきたる馬場の初春

申のとし

No.73 楽成丈外狂歌歳旦(文書番号二一六一八)

画狂人北斎画(女初鋏入図、彩色)

楽成丈

春されハとくる氷の水鏡門田にうつる山の笑顔

東館百成

三方のうへ野あたりの若草を喰積にする春のあら駒

馬人随

春されハかた山里の人の気も和らきて聞鶯の歌

○ 鎌鋏有門人

月星の夜もつまれハおのつから日を引のハす鶯の声

醉亀亭広丸

金へんの文字てふ鍬のいれ初や作りのあきの方に向ひて

歳暮

雪のかきたれ降れる日も鶯は籠桶に囀り  
梅ハ中庭に咲たちてさながら春の色を顯す

No.74 峨巒堂柱仲住狂歌歳旦(文書番号二一六一九)

画狂老人北斎於而天王橋之辺ニ写(鳶凧図、彩色)

花鳥は備りたりなとのうち

万葉老人書

青柳のいとけなき子も春くれハ

几中になひける風の手遊ひ

峨巒堂柱仲住

No.75 水亭行也狂歌歳旦(文書番号二一六二〇)

辰斎画(旭・白梅図、彩色)

東都に老店をしつらひてめてたき春を迎ふ

水亭行也

曲け形に一株となる梅のやと

四方にはひこるねさし見えたり

No.77 花晨亭月扇歳旦(文書番号二一六二五)

豊広画(小槌・折鶴三方図、彩色)

歳旦

花晨亭月扇

おもしろや千代に八千代の松囃子

春興

春浅し鴨に根深も一趣向

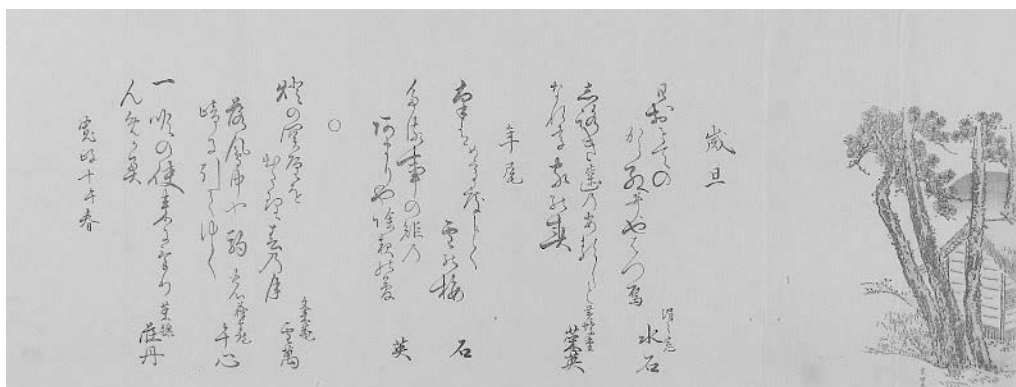


図1 No.35 黄蝶堂菜英外歳旦(文書番号14806,21622)



図2 No.72 水亭行也外狂歌歳旦(文書番号21617)



図 3 No.73 楽成丈外狂歌歳旦 (文書番号21618)

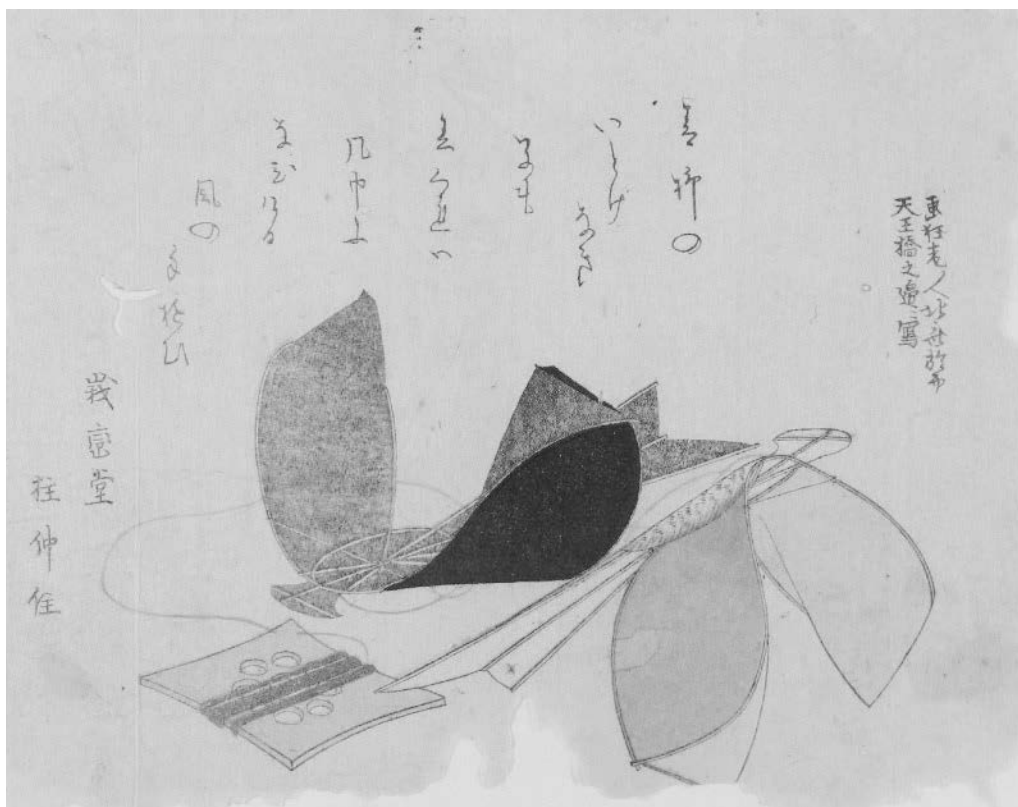


図 4 No.74 峨巒堂柱仲住狂歌歳旦 (文書番号21619)





図5 No.42 川田谷黄蝶堂菜英歳旦 (文書番号17572)

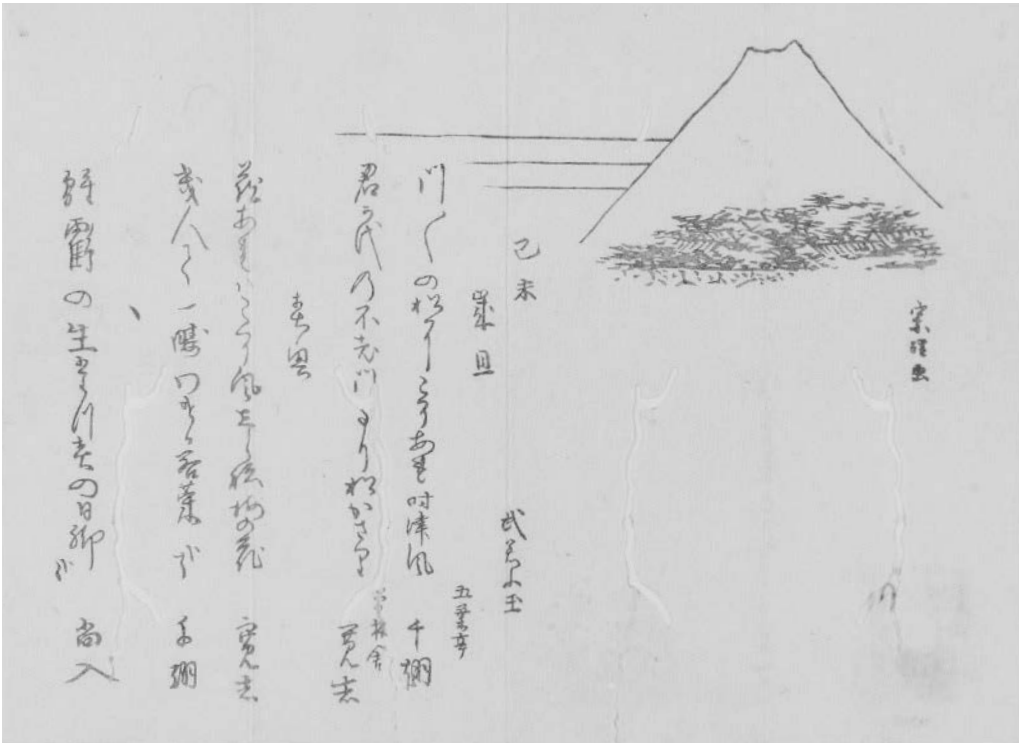


図6 No.51 武若小玉連歳旦 (文書番号21623)

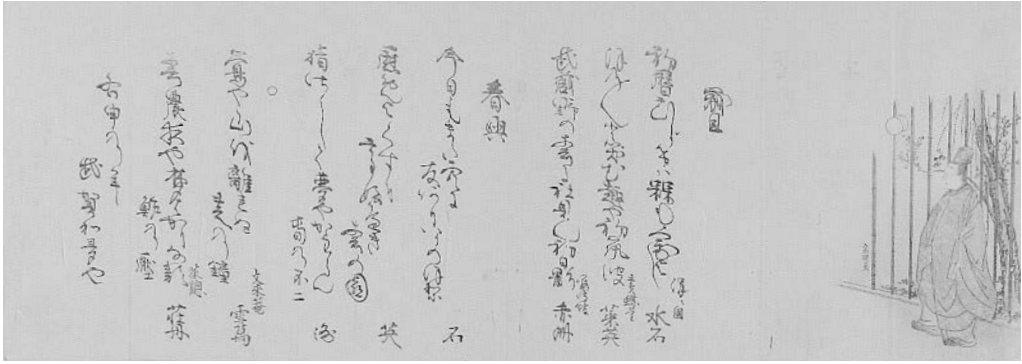


図7 No.37 武かわたや連歳旦 (文書番号21626)

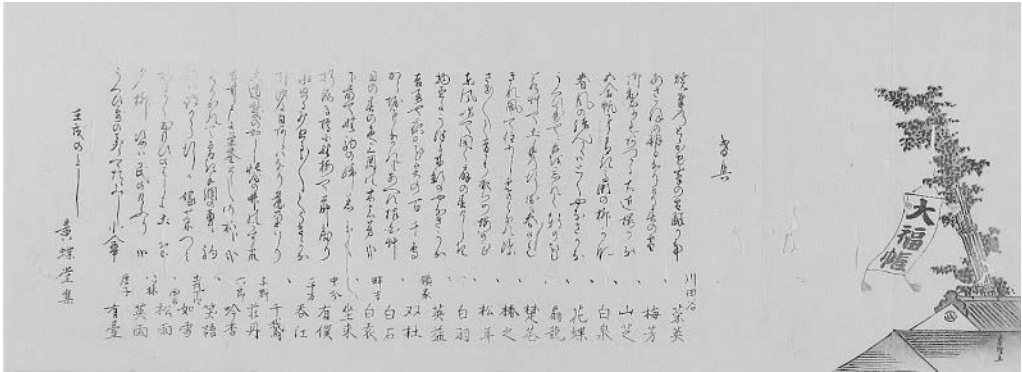


図8 No.38 黄蝶堂集歳旦 (文書番号21621)



図9 No.39 黄蝶堂菜英外歳旦 (文書番号21616)



図10 No.41 東武川田谷連歳旦 (文書番号29913)

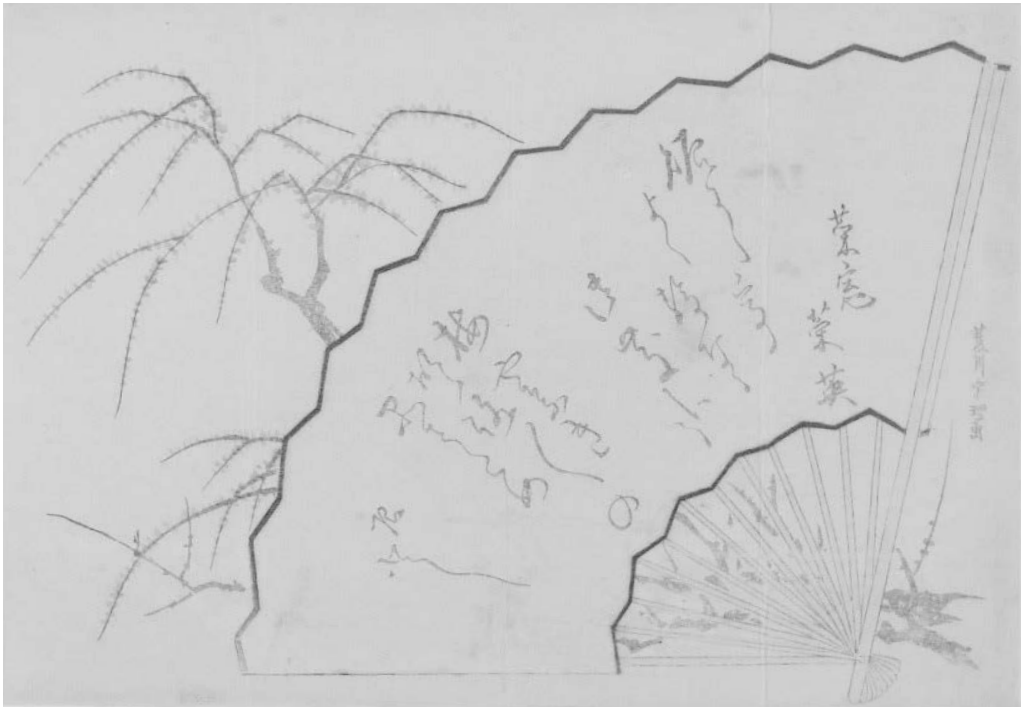


図11 No.44 菜窓菜英歳旦 (文書番号15594,29205)



図12 No.71 桜庵芳野美種外狂歌歳旦 (文書番号29206)



図13 No.75 水亭行也狂歌歳旦 (文書番号21620)

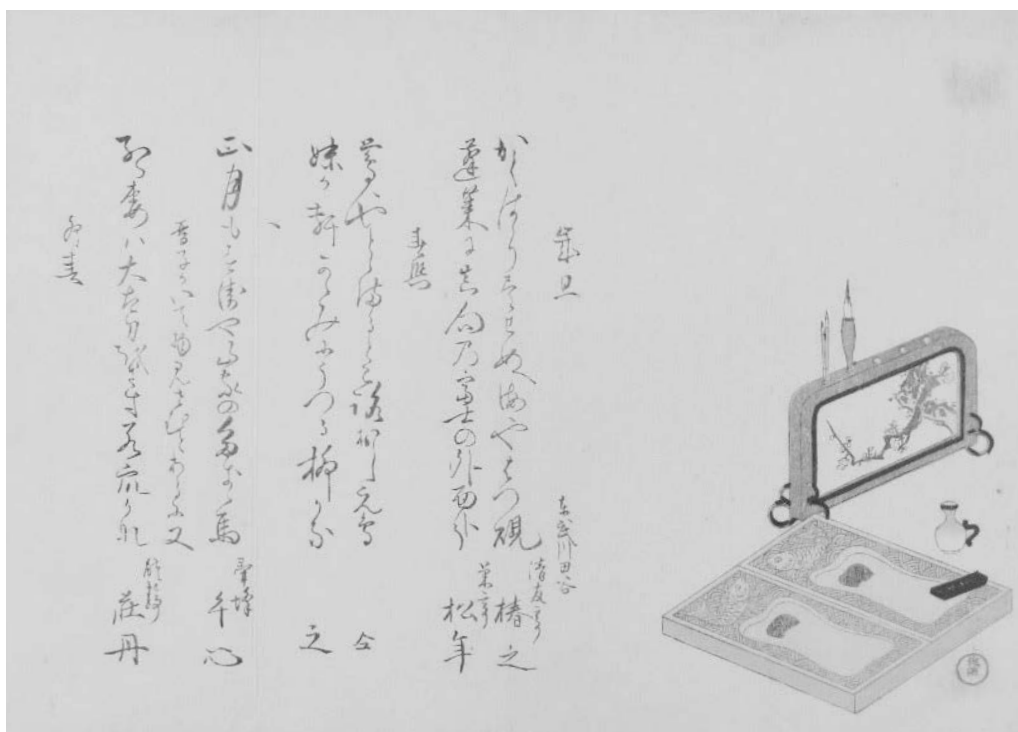


図14 No.43 東武川田谷連歳旦 (文書番号15170)

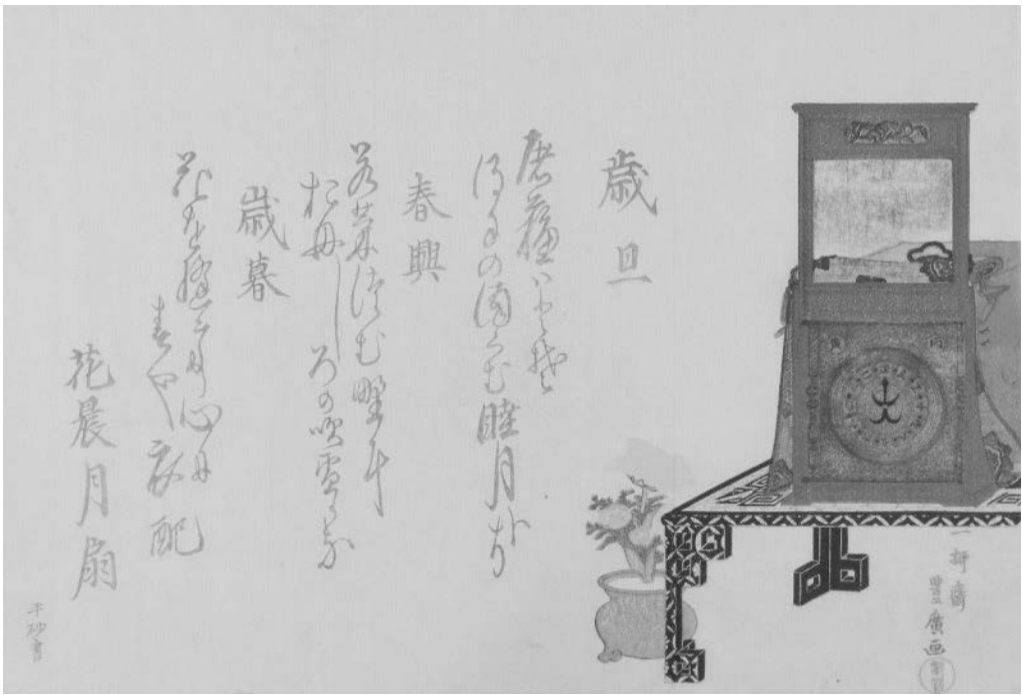


図15 No.70 花晨月扇歳旦 (文書番号21275-1)



図16 No.77 花晨亭月扇歳旦 (文書番号21625)